

安定した飼料用米生産に向けて

1 飼料用米への支援内容変更点

飼料用米の多収品種への作付け転換を推進するため、一般品種での飼料用米の支援水準（水田活用の直接支払交付金）を令和6年産以降、段階的に引き下げることが予定されています（図1）。

令和5年産		
●数量に応じて 5.5～10.5万円/10a (標準単価 8.0万円/10a) or ●単価8.0万円/10a		
令和6年産	令和7年産	令和8年産
●数量に応じて 5.5～9.5万円/10a (標準単価 7.5万円/10a) or ●単価7.5万円/10a	●数量に応じて 5.5～8.5万円/10a (標準単価 7.0万円/10a) or ●単価7.0万円/10a	●数量に応じて 5.5～7.5万円/10a (標準単価 6.5万円/10a) or ●単価6.5万円/10a

図1 飼料用米（一般品種）への支援変更の概要

減額後も一般品種で継続することは可能ですが、国・県が認めた多収品種及び知事特認品種であれば、従来通りの金額が支払われます。そこで、現在一般品種を栽培

している生産者は、対象品種への転換が望まれます。

2 多収品種について

従来通りの支援が受けられる多収品種・知事特認品種は、次の通りです。

多収品種一覧	
いわいだわら	北陸193号
えみゆたか	ホシアオバ
オオナリ	ミズホチカラ
きたげんき	みなちから
北瑞穂	モグモグあおば
クサホナミ	もちだわら
たちじょうぶ	モミロマン
ふくのこ	夢あおば
ふくひびき	笑みたわわ
べこあおば	垂細垂のかおり
べこごのみ	
知事特認品種（むさしの26号）	
（R5年6月現在）	

埼玉県では知事特認品種として「むさしの26号」の認定を受けており、令和6年産から種子の販売が始まりました。今回は多収品種の一例として、今年から新たに導入される「むさしの26号」と、地域で広く栽培されている「夢あおば」の品種特性をご紹介します（表1）。

☆むさしの26号

適量の施肥で一般品種よりも多収が期待でき、肥料高騰の現状に適した特性をもちます。また、草丈が「彩のかがやき」と同じくらいなので、コンバインで高刈りせずに収穫できる利点もあります。

○栽培上のポイント

穂いもち病抵抗性遺伝子はありますが感染はするため、多発生が予想される場合は防除を行います。また、紋枯病も発生しやすいので注意してください。加えて、耐倒伏性は「中」のため、過剰な施肥は行わないように、また、登熟後は長くほ場に置いておく、倒伏の恐れがあるので速やかに収穫を行います。ケイカル等、ケイ酸質資材の施用も有効です。更に栽培時期が「彩のかがやき」と重なるため、作付け時期にも注意してください。

☆夢あおば

乾物収量・粗玄米収量が多く、耐倒伏性は極強なので、湛水直播にも適します。玄米が大粒で、一般品種と識別性があります。

○栽培上のポイント

いもち病抵抗性はありますが、病する可能性があるため、発生の有無には十分注意しましょう。また、穂数が少ないので、分げつ数を確保するため、食用品種よりも増肥する必要があります。しかし、極端な多肥栽培では倒伏する可能性もあるため、地力に合わせて施肥を行います。

3 飼料用米品種の注意点

J Aふかや管内での生産は、個

4 「むさしの26号」展示ほ設置について

人で乾燥調製できる方に限ります。また、「むさしの26号」は主食用米として絶対に流通させてはいけません。知事特認品種で流通が確認された場合は、認定取り消しとなります。乾燥施設の使用時期を主食用米としっかり区別して使用するようにならしてください。

「むさしの26号」の地域での栽培特性を把握するため、展示ほを設置します。現地検討会も開催予定ですので、ご興味のある方は農林振興センターまでご連絡ください。

むさしの26号

田植日	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数本/m ²	収量 kg/10a
6/24	8/25	10/15	89.3	20.8	392	555
施肥	肥料名称	成分含有量	現物施用量	成分量		
				窒素	リン酸	カリ
基肥	高度化成	14-14-14	28 kg	3.9	3.9	3.9
穂肥	NK化成	17-0-17	12 kg	2.0	0	2.0

夢あおば

田植日	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数本/m ²	収量 kg/10a
6/24	8/22	10/7	87.0	22.4	238	659
施肥	肥料名称	成分含有量	現物施用量	成分量		
				窒素	リン酸	カリ
基肥	高度化成	14-14-14	36 kg	5.0	5.0	5.0
穂肥	NK化成	17-0-17	18 kg	3.0	0	3.0

表1 2品種の栽培特性